

科目名	母性看護学演習		分野・必選別・ 単位数	専門科目 (リプロダクティブヘルス・ライツ看護学)	選択必修	4単位
担当教員	◎教授 梶原祥子				科目ナンバー	T2C111
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	通年	授業方法 演習
授業の概要	女性が持つ健康問題を解決するために医療・保健・福祉の諸機関、民間の支援団体での実習を通して、健康問題の分析力、実践対処能力、状況の改善方策、調整能力を探究する。また、母性・助産学の研究結果を検討し、ケア実践の評価、効果的なケア提供について論述する。					
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の持つ健康問題についてアセスメントすることができる。 ・女性の持つ健康問題に対する医療・保健・福祉の観点を踏まえた支援方法について説明できる。 ・実習や文献をもとに具体例を示しそのケア実践の評価についてプレゼンテーションができる。 					
授業計画	回数	担当者	行動目標			
	<p>【第1回～第8回】女性の健康問題の分析1 医療・保健・福祉機関、民間の支援団体にて女性が持つ健康問題のアセスメント技術、各種ケア実践能力、人間関係形成能力、他職種との協同能力を向上させる。</p> <p>【第9回～第12回】女性の健康問題の分析2 女性、母子、家族の健康問題を評価し、地域社会の視点から状況改善に向けての提言を考察できる。</p> <p>【第13回～第16回】女性の健康問題の分析3 学会等に参加し、各自の学習テーマに沿った実践の改革と向上についてクリティークできる。</p> <p>【第17回～第30回】母性・助産学領域の研究結果の検討 各自の関心に沿った文献2編についてケア実践の評価の視点からプレゼンテーションできる。</p>					
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	次回の授業内容を予習し、用語の意味や新しい知見について理解しておくこと。				
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、参考書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。				
	【必要時間】	当該期間に60時間以上の予復習が必要である。				
教科書	特に定めない。					
参考書	必要に応じて適宜提示する。					
成績評価の方法および基準	プレゼンテーションを含むレポート50%、毎回の討議への貢献度50%により評価する。					
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP3が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。					